

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)

事業所番号	2775600519		
法人名	有限会社エフ・エフ産業		
事業所名	グループホームさくら荘		
所在地	大阪府泉南市新家3566-4		
自己評価作成日	平成30年8月22日	評価結果市町村受理日	平成30年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様に、さくら荘を活用して頂くために、毎月の回覧板で、さくら荘の現状や認知症報告させて頂いています。回覧板を回して頂くことで、顔見知りの関係が広がっていき、何配なことがあるときは、いつでも相談に応じれるように取り組んでいます。そうすることで、の啓発活動に繋がっています。また、母体の病院が隣の市にあるという事で、医療連携があるので、夜間帯に緊急搬送ということになっても、病院が受けてくれますので、何かあった時です。1年を通して、季節ごとの催し物にもしっかりと取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日欠かさず、業務に入る前の朝礼時には、意識付けが出来るように職員そろって理念を唱和しています。そして常に入居者様に対して「その人らしく生き活きと」生活して頂ける様に、職員全員が「その人の思い」を大切にしながら、ケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区区長さんが、さくら荘の回覧板を地域に回して下さっています。そこには、入居者さんのご様子や毎月行っている歌体操・茶話会のお誘い等を載せています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月回している回覧板では、認知症に関する内容を載せています。地域の先生・認知症の専門医が開催して下さっているカフェでの内容等 その日にカフェに来られた人の不安だったり 予防につながる内容だったり と様々です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2ヶ月に1度 現状を報告し、参加して下さっている地域包括・行政・民生委員・区長・家族様等の方々からの貴重なご意見を頂き 今後のケアに繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議で、色々な事に相談させて頂いたり、またわからない事報告等、小まめに連絡を取り ケアに繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前おられた入居者様は、塀を簡単に乗り越えられるということ、施設の前の道路は、交通量も多く大変危険でしたので、その時から、電気施錠を取り入れ、安全確保の面から行っていますが、家族様のご理解を頂き常に散歩等に気軽に出かけています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どうということが身体拘束で、どうということが虐待に当たるのか、外部研修、及び荘内の勉強会でもみんなと勉強し話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の家族が、入院後意識がなく、本人の判断ができなくなったため、成年後見制度を利用するのに、自身が成年後見人になるために 裁判所にて手続きを行い 後見人になろうとしたことが有るので、活用する様支援出来る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時。料金の改正時は、理解して頂く為に十分な説明を行いさらに、同意を得た上で、手続きを進めている。解約時も、本人様の状況を検討し、家族様に十分ご理解頂いた上で行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会の後の家族会では、日頃ご家族様が感じておられることについて 話し合いを持って下さっています。その話し合いの総括をして下さっている方が、運営推進会議に参加してくださっているので、会議の時に色々な報告をして頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃現場に入り、職員の意見等聞くようにしている。又、個別に日頃感じている事など、思いや意見を聴いている。そういう職員の思いを、月1回の管理者会議などで報告し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護職員の処遇改善費支給条件を満たすための体制を整備し職員がやりがいを持てるように努めている。職員の評価報告を受け、職員の努力への労いや褒めることにも、心掛けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を積極的に促し費用面での支援も行っている。研修後は、内部研修にて受講内容や知識を周知し職員全体で、伝播研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市のライフコーディネーターになっており、同業者とラインで繋がっている。わからない事等は、そういう仲間との交流により サービス向上につなげている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や面談の際今までの習慣本人の思いを伺い生活の中で、見守りながら、その方の行動 発せられた言葉の中から、思いをくみ取り支援に繋げていけるように傾聴する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、計画作成者は、家族様より、入居まで、至る状況、経緯要望等しっかりと聞き取りしている。職員はそれぞれの思いを充分理解し、互いの思いに寄り添える支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日の段階で、カンファレンスを開催している。その後も、その人らしく生活できるように今一番必要としているニーズを把握できるように短期間で、カンファレンスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは、大きな家庭という思いで、日々支援に努めている。食事を一緒に食べる会話をする。レクリエーション等を通して一人一人の趣味嗜好を知り得る事で、その人らしい暮らしを支えることに繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、月1回の介護報告書の送付、来荘時には、近況報告を必ず行い、常に、入居者様の今の思いや状況を共有するという事に努めている。年2回の家族交流会は、家族の絆を深める機会に繋がっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力も経て外食、美容院への外出を行っている。友人の来荘も、家族様の了承を得たうえで、積極的に受け入れている。又、買い物、ドライブなど馴染みの場所(秋祭り)にも、積極的にお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の状況を理解した上で、レクリエーション、共同作業等を通じ他者と協力しあえるよう、職員は、必要に応じ間に入り会話を勧めたりと常に目配りし、声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、入院中のお見舞いに面会に行く等の支援、又、必要に応じて、今後の、本人、家族さまの思いに添えるように、多職種と情報提供などで、密に連携をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のお話を傾聴するよう努めている。又、日頃の言動や他者との関りの中で、意向を汲み取れるように心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメントや本人と家族様の話題等から、把握できるように努めている。来荘時に生活状況をお伝えし以前の暮らし方を伺ったりさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望や体調に配慮し、静養家事参加をして頂いている。得意な事や好き嫌いを把握し声掛けを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催している。又、日々のちょっとした変化等は、職員間で、情報共有、交換をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況やケアは、個別に記録をしている。特に変化があった言動については、記録、周知を行いカンファレンスなどに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身の周りの買い物、通院各種手続き等、相談の上、対応させて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のボランティアの訪問や、地元中学校のコンサートへの参加を通じ地域社会との繋がりを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の希望を大切にしながら、事業所の協力機関と連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調変化等その都度早く情報をもらい、異常の早期発見に努め、適切な受診、看護等に繋げている。又、処置等の指示を日々のケアに取り入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と家族様と連携し、早期に退院できるように努めている。退院後の生活も、施設的环境等も伝え、事業所と病院が協働し、リハビリが出来るように、務めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態を常に職員が、把握し共有している。主治医も連携をとりながら、家族様と話し合い、今後の状態の変化に施設としてどう対応していくか検討し、方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回、事故防止委員会、自主学習会などで、応急処置初期対応について訓練、シミュレーションをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間、昼間を想定した火災、地震の避難訓練を実施している。近隣の方とは、口頭で助け合いましょうとは、話しているが、具体的な話にはなっていない。回覧板で、訓練等には参加を呼びかけてはいるが、参加して頂くまでには、至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人それぞれ違って当たり前という事を念頭に置いて対応している。話をする時は、目線を同じ高さにするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護側の良かれと思ってしている事が、利用者様の自立(自律)の妨げになっていないかよく考えて行動するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の「～したい」という発言は、しっかりと受け止めて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「その服似合ってますね」と声掛けする事もあるが、夏に毛糸の物を着ていたりする時は、「暑くない?」と声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時間的に余裕が有るときは、野菜の皮むき等をしたりしている。片付けのお盆拭きは、日課になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の食事にかかる時間を把握して、無理強いにならない様な声掛けをしている。また、水分量の少ない人にも、必ず声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩は、必ず声掛けをしている。義歯の人に関しては、夜間に再度洗浄し、支援を行っている。口腔内のトラブルについては、口腔に詳しい職員もいるので、その者に相談しながら、訪問歯科の先生に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄のペース、サインを見て、失禁される前に声掛けを行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝朝食後に牛乳を飲んで頂いたり、毎食水分をしっかりと摂って頂くように声掛けさせて頂いている。医師の指導の下、職員間看護師も含め 相談下剤の服用もして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴ですが、その日の状況などによって、いつでも入浴できるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、リビングで過ごしたり出かけたりして活動している。1時間程度の昼寝をされる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時には、必ず間違いがないか1つ1つ確認している。服薬の確認についても、介護記録に毎食後記入している。症状変化時には、看護師に報告指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事の手伝い、絵を描いたり塗り絵や計算問題に取り組んだりして頂いている。月ごとのイベントの企画をし、楽しく過ごして頂けるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出かけ、普段は、しゃべれない事などを散歩しながら、会話を楽しんでいる。希望があれば、買い物等出かけたり喫茶店にケーキを食べに行ったりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、入居者様の金銭をお預かり管理させて頂いている。本人の希望の物や必要な物は、家族様と相談の上、購入している。買い物は本人と出かけるようにしており、お金を渡し支払いをして頂くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状に対して、お礼状を出す。家族様の電話を取り次ぐ等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ快適に過ごして頂けるようにテーブルの配置等も時折見直している。温度調整を小まめに行っている。手作り作品の掲示や写真などで、コミュニケーションを図れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファー廊下にベンチを設置している。ソファで横になり、身体を休めたり、ベンチで数人で会話を楽しめたり一人の時間を持たれたりと活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染みの物をお持ち頂けるように声掛けしている。又、家具、ベッド等などは、本人の希望があれば、安全面を確認し、配置を決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりの設置をして安全に歩行できるようにしている。トイレ案内の⇒印や、居室ドアに表札を出し、個室の区別をしている。		